

気分障害の治療に おける飲酒の弊害

医療法人社団 メディカルケア虎ノ門
プレ・スクール



1. アルコールと精神科薬

1-1. アルコールと薬の相互作用

- ① アルコールと薬の作用が重なり合い、薬の効果、副作用が増強される場合
- ② アルコールが薬の代謝（分解）速度を変え、薬の効果に影響を与える場合
- ③ 薬がアルコールの代謝（分解）に影響を及ぼす場合（2. と逆の場合）

1-2. 交差耐性について

アルコールを習慣的に飲んでいると、今までの飲酒量では、酔えなくなり、次第に飲酒量が増えていく

耐性ができる

アルコールについて耐性を獲得すると、睡眠薬についても耐性を獲得してしまう場合がある

交差耐性ができる

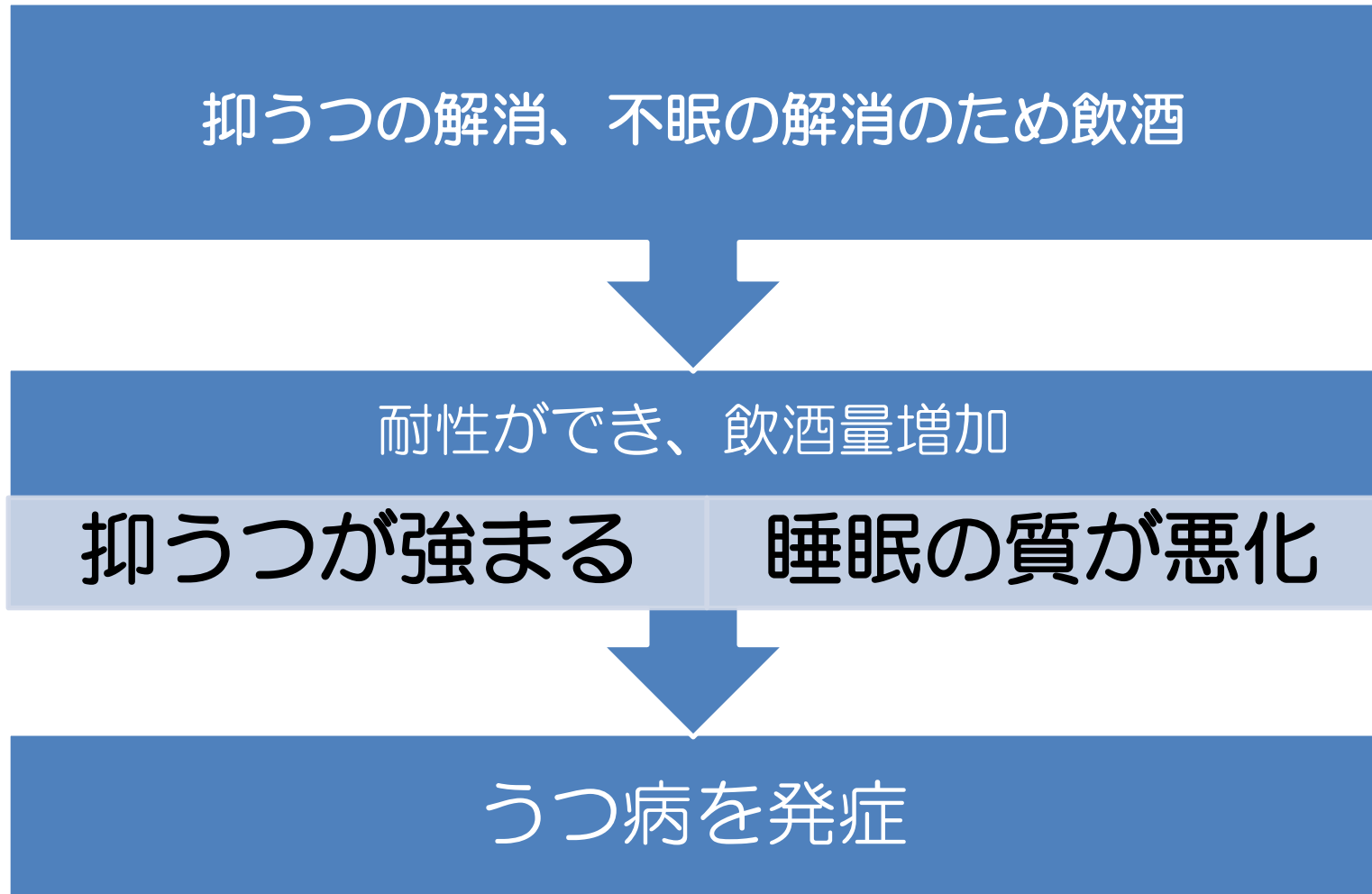
1-3. アルコール含有製品について

- 酒類はエタノール1%以上含むもの
- 医薬品として市販されているドリンク剤
- 炭酸飲料、清涼飲料水、栄養調整食品

2. アルコールと うつ病



2-1. アルコールとうつ状態の関係



2-2. うつ病と非うつ病における アルコール依存症合併率の比較

	現在合併率	生涯合併率 (%)	比較対象
1 うつ病	6%	19%	—
非うつ病	3%	4%	高血圧患者
非うつ病	1.4%	1.6%	糖尿病患者
2 うつ病	21%	40%	—
非うつ病	7%	1.6%	一般人口
3 うつ病	—	1.6%	—
非うつ病	—	1.3%	一般人口

2-3. うつ病とアルコール依存症の 合併するパターン

- ① 単なる合併または共通の原因（ストレス、性格、養育環境、遺伝因子など）による場合
- ② 長期の大量飲酒がうつ病を引き起こした場合
- ③ うつ病の抑うつ気分や不眠を緩和しようとして飲酒を始め、その結果、依存症になった場合
- ④ アルコール依存症の人が飲酒をやめることによって生じる離脱症状の1つとしてうつ状態がみられる場合

2-4. うつ病の経過に及ぼす アルコールの影響

- うつ病の人の飲酒がうつ病の経過に影響するかしらないか意見が分かれている
- うつ病の改善率が低下するという意見と、飲酒とうつ病の再発には関連がないという意見がある
- アルコール依存症の合併や飲酒問題は、うつ病の自殺の危険性を高める

2-5. うつ病の治療を妨げる アルコール問題の影響について①

- アルコール問題はうつ病における再入院率を高める (25% VS 0%、 $P=0.004$)
- 退院後、1か月のうつ病の回復率はより低かった (25% VS 55%、 $P=0.05$)
- 入院期間も長く、外来通院は4年を超えるケースが多い

2-6. うつ病の治療を妨げる アルコール問題の影響について②

- うつ病におけるアルコール問題の対人関係の影響として、離婚率、独身率が高い
- アルコール依存症を合併するとうつ病のみの患者より再飲酒とアルコール乱用が増える



3. アルコールと自殺の危険性

3-1. アルコールによる自殺の危険性

自殺した人の3分の1は、直前に飲酒している



- ①心理的苦痛を増強する
- ②自分に対する攻撃性を高める
- ③死にたい気持ちを行動に移すきっかけとなる
- ④視野を狭め、自殺予防できない

3-2. 慢性的な飲酒と自殺

習慣的な大量飲酒は自殺の危険性を高める



- ① 大量飲酒者と非飲酒者
- ② 少量ないし中等量の飲酒
- ③ 飲酒量に比例して危険性高まる

3-3. 禁酒の必要性について

- ① アルコールは薬の作用、副作用に影響する
- ② アルコール問題はうつ病の治療を妨げる場合がある
- ③ うつ病の人がアルコールを飲むと、アルコール依存症を合併する率が高くなる
- ④ アルコールは自殺の危険性を高める



うつ病治療中は禁酒が原則